



練馬区立美術館の2026年度

感動と出合いを再び

— 企画展を再開いたします

練馬区立美術館は、1985年の開館以来、多くの皆さまのご協力とご支援のもと、地域社会に根ざした美術館として活動を行ってまいりました。おかげさまで、昨年秋に開館40周年を迎えることができました。この場を借りて、美術館のご利用者をはじめ、作品のご所蔵者や全国の美術館・博物館、アーティスト諸氏、ボランティアを含むスタッフ一同など、これまでお世話になってきたすべての関係各位に対しまして、改めて心より御礼申し上げます。

ご承知のとおり、当館は2024年暮れから美術館再整備事業への対応のため、館内での企画展開催をしばらく中断していました。皆さまには、時に寂しい想いをさせてしまったかもしれませんが、今年度は企画展を再開する運びとなりましたことをご報告させていただきます。まずは、7月の「若林奮展／寺田真由美」展（仮称）より再スタートを切ります。彫刻家・若林奮の新収蔵品（彫刻、素描、版画）による個展と、練馬出身の寺田真由美の初期から最近作までを写真作品を中心にたどる個展とを同時開催します。

続けて9月からは、「アーツ中村橋2026—わたしとまちの記憶」展（仮称）を開催。昨年の「アートマルシェ」での展覧会手法を拡充するかたちで、中村橋駅周辺のまち空間と美術館をアート作品でつないでいきます。

10月からは「戦後アヴァンギャルド×ユアサエボシ」展（仮称）を開催します。当館が継続的に収集を続けてきた池田龍雄、高山良策、中村宏らの作品を中心に紹介する戦後の前衛美術。そこに「大正生まれの架空の三流画家」という設定で絵画制作を行っている現代作家ユアサエボシが対峙し、前衛美術家たちと架空の交流と対話を紡いでいきます。

今年度の掉尾を飾るのは、来年2月から開催する「野見山暁治」展（仮称）です。一昨年に開催した追悼展「野見山暁治 野っ原との契約」は好評を博し、記憶に新しいところですが、本展では作画と文筆活動というこれまでになかった切り口で、野見山の新たな魅力に迫っていきます。

以上の展覧会に加え、多様な教育普及事業をお届けします。練馬の地域資源から美術との新しい向き合い方を参加者とともに考える新規ワークショップ「練馬の博物誌」、アーティストや研究者ら多彩な講師陣による「中高生の美術ゼミ」、「ネリビ図工室」をはじめとする小学生ワークショップ、学校教育との連携事業など多様なプログラムを用意して、あらゆる世代の皆さまのご参加をお待ちしております。

今年度も皆さまに親しまれる美術館を目指し活動を行ってまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

練馬区立美術館 館長 伊東正伸



上：若林奮 題不詳 1988年 鉛筆、水彩・紙
中：若林奮 題不詳 1991年 鉛筆・紙
下：若林奮 題不詳（『Run and Rest に関係』）
1997年 鉛筆・紙
全て2025年度当館収蔵

Exhibition

2026年度 展覧会紹介

年間スケジュール

Pick up!

まちに飛び出した展覧会の
第2弾を開催します！

アーツ中村橋 2026 — わたしとまちの記憶 (仮称)



昨年度の様子 (山口啓介《散華樂》2025年 © 練馬風月堂)

昨年度、当館では「アートマルシェ 2025」にあわせて、まちとつながる現代美術の展覧会「身体で感じる緑とアート」を開催しました。今年度はその第2弾として、さらにパワーアップした「アーツ中村橋 2026」を開催いたします。

本展のテーマは「わたしとまちの記憶」です。私たちと中村橋の過去と現在を絵画、彫刻、インスタレーション、写真などの現代美術作品でつなぎます。

展示場所には美術館展示室・ロビーのほか、美術の森緑地や商店街などの周辺エリアを予定しています。これらの場所を会場に、「まちの記憶」、「日常の思い出」、「わたしの物語」の3セッションにて、新進気鋭の若手作家から中堅までの現代美術作家らによる作品と、関連する当館のコレクションを

新収蔵作品 若林奮展 / 寺田真由美展 (仮称)

会期：2026年7月25日(土)～10月18日(日)

アーツ中村橋 2026 — わたしとまちの記憶 (仮称)

会期：2026年9月12日(土)～11月8日(日)

※ 館内での展示は2026年10月18日(日)まで

戦後アヴァンギャルド × ユアサエボシ (仮称)

会期：2026年10月31日(土)～12月27日(日)

野見山暁治展 (仮称)

会期：2027年2月21日(日)～3月31日(水) ※ 予定

紹介予定です。

参加作家を少しだけお披露目すると、大小島真木は新作の絵画によるインスタレーションや陶



参考作品：大小島真木《Fontanelーシン》2025年、陶、釉薬 (ANOMALYでの展示風景) photo by Asato Sakamoto

の立体作品を美術館ロビーや商店街の店舗へ、袴田京太郎は当館の収蔵作家をリサーチした彫刻などを、美術館展示室やまちなかに展開予定です。

今年の秋は、練馬区立美術館と中村橋のまちなかに点在する美術作品をめぐって歩きませんか？

アーツ中村橋 2026 — わたしとまちの記憶 (仮称)

会 期：2026年9月12日(土)～11月8日(日)

※ 館内での展示は2026年10月18日(日)まで

会 場：練馬区立美術館、美術の森緑地
サンツ中村橋商店街ほか

主 催：練馬区立美術館 (公益財団法人練馬区文化振興協会)

観覧料：無料

WANTED
ボランティア募集

2026年度 練馬区立美術館 ボランティアを募集しています！

練馬区立美術館では、美術館の多様な活動を知り、参加してもらうことを目的に、昨年度より「まちとひととアートでつながる」ボランティア活動を開始しています。今年度は「アートマルシェ」や「アーツ中村橋」の運営サポート、教育普及事業の補助など、多岐にわたりお手伝いいたします。当館の活動に参加してみませんか？

活動内容の詳細・応募方法については、応募チラシまたは当館ホームページをご覧ください♪

Events

イベント

子どもから大人まで幅広い世代の方に向けたプログラムで、みなさまのご参加をお待ちしています。美術館から飛び出して、区内各所で実施する新しい取り組みにもぜひご期待ください。

《注意事項》 イベント内容や申込方法などの詳細については、各イベントの開催日および1ヶ月前の当館ホームページ (<https://www.neribun.or.jp/event/event.cgi>)、またはイベントごとの広報物(チラシまたは区報)をご覧ください。
※ 日程などは変更になる場合があります。※ 10月以降のラインナップについては10月1日発行のレター No.4をご覧ください。

中高生の美術ゼミ

本プログラムは、中学生・高校生を対象とした「美術」にまつわる連続ゼミとして昨年度より始まりました。「美術」というと、一見、捉え難いもののように感じるかもしれませんが、ところが実際には、かなり意識的に形成されているのが「美術」であり、それを取り巻く世界です。アーティストや研究者、編集者など多くのプロフェッショナルたちによって「美術」は作られ、支えられているのです。各分野の専門家の講義を通して「美術」の世界を垣間見、学び、思考するのが本ゼミの目的です。



↑ 昨年度のゼミ「日本と世界をつなぐー美術の国際交流」の様子

計10回のゼミを予定しています。通期でお申し込みされ、全講義に出席したゼミ生には修了証をお渡しします。各回個別のお申し込みも可能です。

時期：第1回 5月30日(土) / 第2回 6月20日(土)
第3回 7月25日(土) / 第4回 8月15日(土)
第5回 8月29日(土) / 第6回 9月26日(土)
(10月～1月も開講予定)

対象：中学1年生～高校3年生

練馬の博物誌

美術家・インディペンデントエドゥケーターの榎本寿紀を講師にむかえ、練馬区の風土・歴史・文化を美術の視点で捉えて「練馬の博物誌」を制作する連続ワークショップを開催します！みなさんのもっている記憶力・観察力・想像力から、練馬にまつわるコラージュ、絵画、立体作品、写真などの作品を制作し、練馬の魅力や日常を再発見することを目指します。



その成果は、「練馬の博物誌」として発表します！

時期：Aコース 5月17日(日) / Bコース 6月14日(日)
Cコース 8月9日(日) / Dコース 10月4日(日)
対象：子ども～大人まで(回によって異なります)

成果発表展も行います！！

会期：2027年1月28日(木)～2月14日(日)

ネリビ図工室

小学生を対象に、好きな素材で自由に作りたいものを制作できる「ネリビ図工室」を開催します。手を動かし、素材を組み合わせてかたちを作ることをのびのびと楽しむ機会です。



時期：4月19日(日) 11:00～16:00
7月30日(木) 11:00～16:00
対象：小学1年生～小学6年生

School program

スクールプログラム

学校の学習として美術館について知り、美術に親しんでいただくためのプログラムです。学芸員が学年やご要望に合わせて内容をつくりまします。

① 団体鑑賞

展示会を学校団体が鑑賞していただくプログラムです。

② 施設見学

美術館の建物を巡り、機能や設備を紹介しします。社会科見学や博物館学習などにもご活用ください。

③ 出張プログラム

美術館担当者が学校へ出張し授業をお手伝いします。美術館の紹介や、所蔵作品の紹介、所蔵品カードを使ったゲームなどを組み合わせた内容を提案します。

※展示替え期間およびイベント開催日等、繁忙期はスケジュールの調整により件数を制限する場合がございます。何卒ご了承ください。

鬚光 《花と蝶》

1941-42年頃、油彩・カンヴァス、72.6×60.8cm



練馬区立美術館は、約40年にわたり、日本近現代美術を中心としたコレクションを構築してきた。収蔵品の中で、練馬を代表する名品を尋ねられれば、必ずと言っていいほどその筆頭に挙がるのが、鬚光(1907-46)の《花と蝶》(1941-42年頃)である。1990年に購入され、収蔵品となった。

39歳を迎える前に上海で戦病死する鬚光は、その短い命を終戦の翌年に終えた戦前・戦中の画家である。早い時期から画家を志していた鬚光は、出身地の広島から大阪へ移り、1924年には上京、太平洋画会研究所で学んだ。1926年には二科会に入選、その他多くの公募展に出品しながらも自身のスタイルを求めていた。1936年には《シン》(東京国立近代美術館)が中央美術展で準賞を、1938年には《眼のある風景》(東京国立近代美術館)が独立美術協会展で独立賞を受賞し、これらを契機に「日本のシュルレアリスム」と評される画風が定着した。1943年にはより自由な活動を求めて、麻生三郎や松本竣介らの仲間たちと「新人画会」を結成したが、翌年には出征することとなった。本作《花と蝶》は、「新人画会」結成直前に描かれたとされているが、この頃は蝶や花を主題とした作品を頻りに手掛けたようだ。カンヴァスいっぱいに広がる植物の緑に、赤い花がアクセントとなり、黒い蝶が存在感を示している。この幻想的な世界観は、鬚光独自の自然観察に、独特な色彩や動きあるモチーフの組み合わせによって生み出されている。

戦病死し、郷里の広島に残した作品は原爆で焼失してしまったことから、現存する鬚光の油彩画は少ない。《花と蝶》は、紛れもなく、彼のスタイルが結実した象徴的な作品の1点である。

学芸員 小野寛子

施設の貸出について

美術への関心と理解をより深めるための諸活動や、創作及び作品発表等にご利用いただくことを目的に館内の施設を貸出しています。ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。施設の貸出についての詳細は当館ホームページをご確認いただくか、お問い合わせください。

区民ギャラリー 美術作品の展示発表を目的とする団体および個人に貸出します。
1日を単位として、連続6日まで利用できます。(展示・撤去作業の時間を含む)

名称	面積	利用時間	使用料
2階 一般展示室	85.5㎡	10:00～18:00	4,000円/日

※ ご利用の6ヶ月前に利用申込の抽選会を行います。

創作室 主に美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする団体および個人に貸出します。

名称	面積	定員	利用時間	使用料	貸出備品・器具など
2階 創作室	110㎡	30名	10:00～13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子)、イーゼル、ホワイトボード、プレス機、石膏モデル等
			14:00～18:00	1,600円	

※ 練馬区施設予約システムからの申込となります。

編集後記

あ、練馬区立美術館の建物がある!? という声が聞こえるような聞こえないような…。建物の解体工事の見送りにともない、今年も中村橋で、展覧会やワークショップなどもりだくさんのプログラムで皆さまのご来館をお待ちしております。昨年からのあたらしい取り組みとして、美術館からまちに飛び出す展示活動も充実させてまいります。美術館でもまちなかでも、美術との出会いを大いに楽しんでいただけるよう、職員一同がんばってまいります。41年目の練馬区立美術館の活動にどうぞご注目ください。

第72回練馬区美術家協会展

6月26日(金)から「第72回練馬区美術家協会展」を開催します。練馬区美術家協会は、練馬区在住の美術家および美術評論家によって1955(昭和30)年に発足して以来、美術を通じて練馬区の文化振興に寄与してきました。現在、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸と幅広い分野の作家が参画しており、会員数は総勢70名。会員の作品の数々は、区役所をはじめ練馬区内の区立施設に展示され、区民生活に彩りを添えています。

本展覧会は、練馬区美術家協会会員の作品を一堂に鑑賞できる年に一度の機会です。会期中2回のギャラリートークも予定しています。是非足をお運びください。

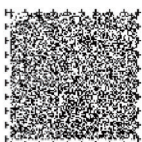
会期：2026年6月26日(金)～7月5日(日)

会場：練馬区立美術館 3階展示室 観覧料：無料



昨年第71回練馬区美術家協会展のギャラリートークの様子

Uni-Voice



発行・問い合わせ：



ちもっともつとアート
練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

〒176-0021 東京都練馬区貫井 1-36-16
TEL 03-3577-1821
HP : <https://www.neribun.or.jp/museum.html>
X : @nerima_museum

HP



X

